

法華宗とは

法華宗は

- 法華經に基づいて信心をすすめ、この世の中に真の幸福な世界を築くことを目的としています。
- はるか遠い昔からの釈尊のご信仰を受け継いだ、宗祖日蓮大聖人の教えを、そのまま今に伝える唯一の宗派です。日本の歴史上では、建長5年(1253)4月28日に、日蓮大聖人がはじめて「南無妙法蓮華經(なむみょうほうれんげきょう)」と唱えられたときに始まります。日蓮大聖人が唱えられた「南無妙法蓮華經(なむみょうほうれんげきょう)」というお題目を聞き、信じ、口唱し、多くの人々の心に、仏になるための種子(しゅじ)を植えていくことを信心の生活の根本としています。

本尊

本尊は本門八品上行所伝の『南無妙法蓮華經』です。宗祖日蓮大聖人は私達の為『南無妙法蓮華經』の内願の世界を大曼荼羅としてお示しになりました。全ての諸仏・諸菩薩・諸天善神が法華經の内にお住まいになられています。

私達法華宗信徒は 諸仏が勧請された御宝前すべて『南無妙法蓮華經』となるのです。

法華宗の教え

法華宗の教えとは何かということですが、宗祖日蓮大聖人のお唱えになったお題目は、「本門八品上行所伝の南無妙法蓮華經」です。宗祖は、家に讃教の努めあれば、七難即滅七福即生とおっしゃっています。この本門八品のお題目を身口意にとなえ実践することを大切に考えています。

そしてこのお題目を忠実に伝えられ、お教えになられたのが開祖日隆聖人です。お題目は決して抽象的な心理とか法理とかいうものではなく、人間の心を育て向上させるための生命力あふれる慈悲そのものの教えであり、功德のあつまりなのです。

私たちはこのお題目を唱えることにより、明るい社会、平和な社会を築いていくのです。

法華宗の概要と教義・伝統

法華宗の伝統は、本佛釈尊が上行菩薩に付嘱し、人界応現の上行菩薩たる宗祖日蓮大聖人が本門八品上行所伝の要法を六老僧である日朗（にちろう）聖人をはじめとして中老僧と呼ばれる光長寺を開かれた日春（にっしゅん）・日法（にっぽう）両聖人、鷲山寺 日弁（にちべん）聖人に伝授され、中でも日朗門下の日像上人は、日蓮大聖人の御遺嘱であった京都開教で妙顕寺を創立、その後室町時代に入って大覚（だいがく）大僧正、朗源（ろうげん）和尚、日霽（にっせい）聖人と法脈は受け継がれました。ところが日蓮大聖人の正しい教えは、御入滅後次第に歪められ、本迹一致の邪義が横行し、分脈がおこっていきました。この時に日霽門下に日存（にちぞん）・日道（にちどう）両聖人の教えを受けた日隆聖人が出られ、永享元年（1429）「四帖抄」を著されて、本門八品の正意を鮮明にされました。また日隆聖人は本能寺・本興寺を建立して法華宗を再興され、法華宗の再興唱導師に崇められています。時を同じくして、光長寺に日朝（にっちょう）聖人が出られ、日隆聖人と八品正意を確認され一味法水の契りを結ばれました。法華宗はその後次第に教線を伸ばしていきました。しかし、天文法乱や安土宗論で門下も大きな痛手を受けましたが、本能寺 日承、本興寺 日諦上人等の活躍で復興発展し、江戸時代には鷲山寺とも一体不離の関係を深めています。明治になり江戸・浪速をはじめ各地に八品講が起り、在家信仰も活発になってさらに教線が伸張されました。昭和に入って戦時下の曼荼羅不敬事件を乗り越えて、宗是を格遵して日蓮大聖人以来の本門八品の正統を受け継いでいます。

日隆聖人

本門の「祖」とお呼びし、法華宗再興唱導師と称されております。

至徳二年（1385年）十月十四日富山県射水にて、桃井尚儀・益子の子として生誕され、幼少にして剃髪得度、十八歳の頃、京都妙顕寺におられた叔父の日存・日道両聖人を頼り、第六代管主日霽上人の門に入り、慶林坊日隆と名を改められ、日夜法華経の奥義を探求されました。この頃の都は、信仰・政治全て乱れ、人々は恐怖の中での生活です。当然法華信仰も例外ではなく墮落しておりました。その有様を見ておられた日隆聖人は、民衆の悩み・苦しみ畏怖する姿に接し一大決心をされ、叔父の両商人と共に妙顕寺を退出し、日蓮大聖人の正義の教えを復興されるために立ち上がったのでした。

そして応永二十二年（1415年）本応寺（後の本能寺）を創建されましたが、真の法華信者に降りかかる迫害はやはりあり、応永二十五年（1418年）本応寺は破却され、さらに刺客をも送られ命も狙われるにいたり、故郷の射水に戻られましたが、その地において「法華天台両宗勝劣抄（四帖抄）」を著され、日蓮大聖人の正義再興を宣言され、永享五年（1433年）に京都六角大宮に再び本応寺を再建され、「本能寺」と改称されました。破却から実に十八年の歳月です。日隆聖人八十年の御生涯にて、その間三百余巻の書を著され、現在法華宗の聖教として大切なものになっています。寛正五年（1464年）二月二十五日に御遷化されました。

本門流

法華経は迹門と本門とに分けられます。

門祖日隆聖人は法華経の本門の中でも、特に「從地湧出品第十五」から「囑累品第二十二」迄を最も大切な教えとされ、『本地本門』と称されました。

お釈迦様が上行菩薩に托され、上行菩薩が今生にて日蓮大聖人となられ弘められたのが、法華経の真髓『本地本門』に由来するところのお題目、それが『本門八品上行所伝本因下種の南無妙法蓮華経』であるとお教えくださっております。日隆聖人御在世の乱れた時代に、私たち民衆の安穩を願われ、法華再興を誓願され、日蓮大聖人の教えを忠実に、そして正義をお伝えくださっているのが、法華宗本門流でございます。

そして本性寺は、日隆聖人創建大本山本能寺に連なる寺ですので本能寺派となります。